

津山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	英語Ⅴ
科目基礎情報						
科目番号	0071		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電子制御工学科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：『Basic Literacy for the Sciences』（金星堂） ・ 参考書：英和辞典（電子辞書もしくは冊子），PCの持ち込み可能					
担当教員	山口 裕美,住田 光子					
到達目標						
学習目的：4技能（聴き・読み・書き・話す）をバランスよく養成する。						
到達目標： 1.英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりできる。 2.英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。 3.本文の要旨を英語でまとめることができる。 4.ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることができる。 5◎.日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることができる。						
ルーブリック						
	優	良	可	不可		
評価項目1	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりできる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりがおおむねできる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりが最低限できる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持ち，具体的情報や考えなどを理解したり伝えたりできない。		
評価項目2	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが十分できる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが最低限できる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができない。		
評価項目3	本文の要旨を英語でまとめることが十分できる。	本文の要旨を英語でまとめることができる。	本文の要旨を英語でまとめることが最低限できる。	本文の要旨を英語でまとめることができない。		
評価項目4	ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることが十分できる。	ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることができる。	ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることが最低限できる。	ペアワークやプレゼンテーションにおいて口頭で自分の考えを伝えることができない。		
評価項目5	日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることが十分できる。	日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることができる。	日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができ，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることが最低限できる。	日本語と特定の言語を用いて相手の意見を聞くことができず，効果的な説明方法や手段を用いて，自分の意見を伝え円滑なコミュニケーションを図ることができない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	一般・専門の別：一般・外国語					
	必修・履修・履修選択・選択の別：必修					
	基礎となる学問分野：英語学・言語学・英米 / 英語圏文学					
	学科学習目標との関連：本科目は一般科目学習目標「（5）国際性に富んだ人材を育成するための幅広い教養を身につける」に相当する科目である。					
	技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（F）コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力の育成，F-3：技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」である。					
授業の進め方・方法	授業の概要：教材を読み込んで要旨を英語でまとめ，それを口頭で相手に伝える練習をする。					
	授業の方法：本科目は前期に開講する。本文内容を理解したうえで，音読をおこない，英語で要旨をまとめ，その内容についてプレゼンテーション形式で発表をおこなう。また，小テストを5回おこなう。					
	成績評価方法：2回の定期試験の結果を平均して評価する（50%）。定期試験の結果に加え，平素の課題，小テスト，発表など（50%）を総合して成績評価をおこなう。 試験には教科書・ノートの持込みを許可しない。場合によっては再試験を実施する。					
注意点	履修上の注意：本科目は学年の課程修了のために履修が必須である。					
	履修上のアドバイス：予習・復習・課題を指示するので必ず取り組むこと。					
	基礎科目：英語Ⅰ（1年），英語演習Ⅰ（1），英語Ⅱ（2），英語演習Ⅱ（2），英語Ⅲ（3），英語Ⅳ（4），選択英語Ⅰ（4）					
	関連科目：選択英語Ⅱ（5）					
	受講上のアドバイス：積極的に授業に参加すること。教科書・英和辞書を持参し，予習や課題に取り組んだうえで授業に臨むこと。小テストは適宜おこなうので，必ず参加すること。 遅刻について：授業開始20分すぎでの入室は欠課扱いとする。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	●ガイダンス（予習・復習など学習法の説明，受講上の注意）Unit 1	英語で数字を表現できる。		
		2週	●Unit 2	英語で数式を表現できる。		

		3週	●Unit 3	小テスト①	英語で数学の記号を覚える。
		4週	●Unit 4		英語で科学用語を覚える。
		5週	●Unit 5	小テスト②	工学に関する英語を理解する。
		6週	●Unit 6		風力エネルギーに関する英語を理解する。
		7週	●Unit 7	小テスト③	太陽エネルギーに関する英語を理解する。
		8週	●前期中間試験		7週までのまとめができる。
	2ndQ	9週	●前期中間試験返却と解説	Unit 8	前期中間試験のフィードバックができる。地震に関する英語を理解する。
		10週	●Unit 9		台風やハリケーンに関する英語を理解する。
		11週	●Unit 10	小テスト④	火山に関する英語を理解する。
		12週	●Unit 11		Wi-Fiに関する英語を理解する。
		13週	●Unit 12	小テスト⑤	ロボットに関する英語を理解する。
		14週	●Unit 13		製造や加工技術に関する英語を理解する。
		15週	●前期末試験		14週までのまとめができる。
		16週	前期末試験の返却と解説		前期末試験のフィードバックができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
		英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
			英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	小テスト	課題	合計
総合評価割合	50	15	0	0	25	10	100
基礎的能力	50	10	0	0	25	5	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	5	0	0	0	5	10